

Theme Symposium | 学校保健体育研究部会 | 【課題A】大学体育の授業をいかに良質なものにするか

A feasibility of the Social Mission in University Physical Education, Sport and Health Sciences: How to realize the mission

Chair: Kaori Kimura, Hiroshi Imashuku

Wed. Aug 30, 2023 1:50 PM - 3:50 PM RY201 (良心館2階R Y 2 0 1 番教室)

本シンポジウムでは、課題である「大学体育の授業をいかに良質なものにするか」を達成するために、3年間のテーマ「大学体育から提案する質の高い学校保健体育の提供、実現」を設定している。3年目のテーマは「大学体育の社会的使命をいかに実現させるか」である。この課題に迫るために、1年目と2年目のシンポジウム及び研究発表から得られた知見を総括（高橋氏、大林氏）し、未来の大学体育を展望（村山氏）する。大学体育の社会的使命を実現させるためには、中教審答申『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン』（2018年）のみならず、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』（2021年）や内閣府『Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ』（2022年）も踏まえながら、高等教育における教養教育の一科目として大学体育を位置づける必要がある。さらには、文部科学省『地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン』（2020年）が示しているように、高等教育機関を含めた社会から必要とされる大学体育授業を探究し、その目標や目的、学修方法、評価についても明確にする必要がある。最終年度となるため、シンポジウム全体の総括も含めてまとめたい。

[学校保健体育-SA-2]Potential of University Physical Education for Realization of Social Issues

*Taro Obayashi¹ (1. University of Tsukuba)

<演者略歴>

筑波大学体育専門学群卒、同大学院修了（博士：体育科学）。ギリシャ・ペロポネソス大学大学院修了。日本学術振興会特別研究員（DC2）を経て2017年度より現職（筑波大学体育系助教）。国際体育・スポーツ史学会（ISHPES）若手研究者代表委員、NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺」時代考証（スポーツ史）など。

本発表では、2年目のシンポジウム・研究発表の成果に基づきながら、主題となる大学体育の社会的使命と実現可能性について検討したい。シンポジウムでは、現代的課題の一つとして「共生社会の創造」を念頭に、多様性の理解を促進するという観点から①聴覚・視覚障害学生のための大学体育、②ジェンダー・セクシュアリティの視点を取り入れた大学体育、③有形・無形文化財を活用した大学体育の拡がりについて議論した。研究発表では、専門領域の垣根を越えたプレゼンテーションが展開され、例えば大学体育を通じたコロナ禍の大学生の心身フィットネスの向上、将来的な医療費・介護費の削減への社会的影響、ジェンダー・スタディーズなどをキーワードとしたディスカッションが展開された。本発表では主に以上の内容に関するまとめを試み、現代的課題と関連させながら今後の大学体育の可能性に関する議論につなげていきたい。